

1. 研究テーマ

自分の考えや思いをもち、確かに伝える子どもを育てる国語科学習

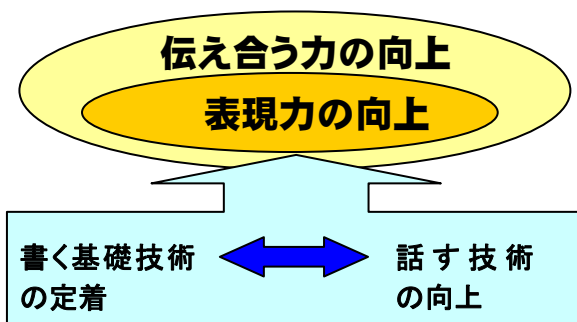
～「書くこと」の学習指導を通して～

2. はじめに

高度国際化、情報化時代を迎え、違う立場の人や見知らぬ人との間で意思や考えを通じ合わせ、より良い人間関係を築く力が一層求められるようになってきている。これからの時代を生きる子どもたちには、自分の意見を相手に分かってもらおうという明確な意図をもち、筋道を立てて確かに表現する力が必要である。

「筋道を立てて考え、確かに表現する力」は、「筋道を立てて書く」ことを学習することによって最も効果的に育成できるものとする。そこで、「伝え合う力」の基盤として、自分の考えをもつ力や、他人との関係を考慮しつつ、自分の考えを言語化して確かに表現する力を育成する国語科の学習の在り方を、「書くこと」の領域に焦点を当てて探っていこうと考えた。

表現力の基礎・基本としての「書く技術」



3. 研究の概要

(1) 「確かに表現する力」とは

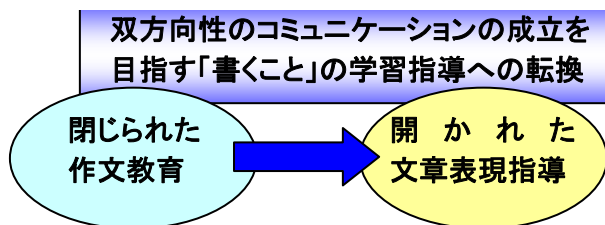
- ①相手に伝えることを目的とし、
- ②考えや思いを明確にして、
- ③筋道を立てて表現する力

- ・相手に伝えるという意欲をもち、相手意識・目的意識を明確にする力
- ・相手に伝えたい内容(考えや思い)を明確にする力
- ・相手に分かるように筋道を立てて表現する力

(2) 「書くこと」の学習指導の意識転換

自己の内面を見つめるために書く「閉じられた作文教育」から、他者との伝え合いの成立を目指す「開かれた文章表現指導」への転換が迫られている。

改善の二つの方向 ①論理性の重視
②伝え合いの重視

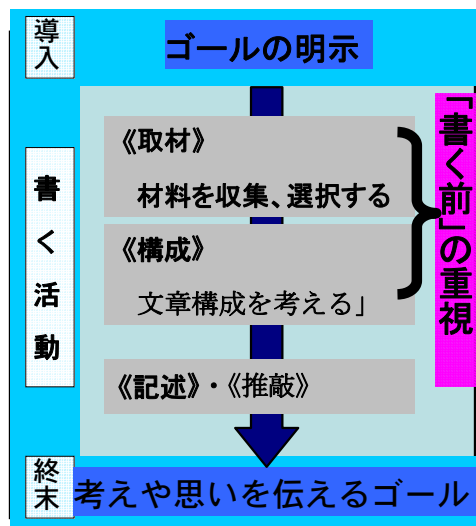


●欧米式パラグラフ・ライティングに学ぶ論理性の重視
文章の型の指導を重視し、段落構成意識を育てる。

EX. 物語文の創作でも、「原因—結果」の筋を通すことを求める。

型を獲得することによって、自己表現の方法を得る

「書いて伝える」単元構想



(3) 研究の仮説

- ①「書いて伝える場面」を単元構想の中に明確に位置づけることにより、表現の土台となる表現意欲が育つ
- ②「書く前」の過程を重視し、取材・構成への支援を強化すれば、自分の考えや思いを明確にする力が育つ
- ③書くことの単元を通して身に付けさせるべき「文章構成の型」を明確に提示し、系統的に指導を積み上げることにより、「筋道を立てて表現する力」が身に付く

4. 研究の内容

(1) 国語科「書く力」の系統表作成

- ①論理的な文章と創造的な文章の2つの系統
- ②身につけたい文章構成の型・技術を示す系統表に基づき、身につけたい力を明確にして検証授業を実践

(2) 検証授業の展開

◎「書く前」の重視

3年生 物語文

《取材》●ワークシートによる支援

旅の結果 一貫性・整合性 旅の原因

お話を筋道を通す

《構成》

●文章構成のモデルの提示

はじめ 中 終わり

村の紹介
登場人物の紹介

時間の流れ
場面が移り変わる

「中」が一番くわしく書いてある

しめくくり、まとめ

5. 研究のまとめ

成果

- 「書いて伝える」ゴールを単元に明確に位置づけることにより、児童は、書くことに意欲的に取り組んだり、考えや思いが伝わったという実感を得たりすることができた。
- 「書く前」の過程を重視し、取材や構成の方法を細かくステップを踏んで教えることにより、児童が自分の考えや思いを明確にして表現することができるようになるという見通しがもてた。
- 身につけたい文章構成の型を明示することにより、児童は見通しをもって書く活動に取り組み、段落を構成し、読み手に考えが伝わる文章を書くことができるという自信をもつことができた。

課題

- 系統的な指導の積み上げ
- 他領域と関連づけた指導
- 学習課題の大きい児童に照準を合わせた支援の工夫

6. おわりに

考える力や表現する力を育てるために「書くこと」が重要であることを再認識した。「書くことが楽しい」と感じる子どもを育てるために、今後も研修していきたい。

◎「書いて伝える場」の設定

5年生 意見文

《導入》●意見発信のモデルの提示

1992年リオ地球環境サミット
12歳の少女セヴァン・カリス・スズキ
「伝説のスピーチ」の紹介

環境問題をテーマに
意見文を書く

《ゴール》●意見文発表会



●相互評価による伝え合い・認め合い

はあとーはあとカードさんへ

話題提示・環境問題の原因、自分で気づけたこと・みんなに書いてほしいことの4つが段落を整理してはっきりと書いている。	A
事実と意見を区別して書いています。	B
一番言いたいことが何のよくなるように書かれています。	A
よく考えて書いているところがある。	A

あなたの一意見したいところは、

みんなに言いたいことがよくわかり、話題提示などの4つのだらくがきちんと整理してあってよかったです。

表現に対する
評価の基本
は、受容・肯定